

申 雅元  
SHEN Yayuan



罫  
ウェンジ、ホオ、サクラ、カツラ、コクタン

## 困

多くの展覧会に行き、「見る」だけではなく、インタラクティブな作品に興味を持つようになった。コロナの時期に長い間独居することで、もっと自分と交流し、自分自身を見つめ直す機会が増えた。私はいつしか虚無主義に陥って、人生は何の意味もないと感じるようになった。毎日『立方体』(檻)から、別の『立方体』に入って、絶えず輪廻して、時にはなにかに押されて上へ歩いたけど、大部分はすべて落ちている。

この感覚を作品にして、私はこの作品を無意味な運動と見なしている。悲観的な観点から作り始めたが、学校が始まってから一年間経ち、この作品に対する見方が変わった。人の参加によって人生はいろいろ変わってくると思う。私が作りたい作品も同じように人が参加しなければならないと思う。観客を参加させ、交流させ、作品に溶け込み、作品の構成部分になる。参加者がいなければ、この作品は不完全である。作品を通じて一つの問題を提起し、鑑賞者自身の答えがあることを期待している。

作品を通じて人々の感覚世界を導き、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりする方法、すなわち、鑑賞者自身の空間環境に対する感情啓発を望むのである。鑑賞者と作品のインタラクションを観察し、自分の位置を考え、他人と結びつく様々な方法を発見する。この結び目を通して自分の新たな認識を発見することを目指している。